

Lead

All roads lead to the future リード



高知大学
Kochi University



75th
Super Regional University
RU×S⇒SRU

コミュニケーションペーパー

2022 夏号
Summer

No. 039

¥0

TAKE FREE

〈特集〉

〈特集2〉

農林海洋科学部
DS / DX セミナー

〈特集1〉

世界初の

日本酒分析方法を開発!

高知大学のこと、もっとわかってほしいから
私たち、
学生広報スタッフになりました!

次世代へとつなげるために
高知の農業を変えるloPを学ぶ

がんばる!先輩
学部での学びを活かして
地域と大学を結ぶ広報活動をしたい!

Kochi University Topics

高知大学発の斬新な成分分析方法が、酒造りの常識を変えるかもしれません。考え出したのは、理工学部化学生命理工学科の小崎講師。司牡丹酒造との共同研究で、令和3年度高知県産学官連携産業創出支援事業に採択されました。

新商品完成までの期間を大幅短縮

日本酒の開発には数年を要するのが常識

小崎先生の専門は分析化学。特に環境食品、農業の3分野に着目し、研究を進めてきました。酒類に関しては以前、ビールをテーマに研究したことがあるものの、日本酒については2017年に高知大学に着任後、初めて手掛けたそうです。共同研究のパートナーは、県内有数規模の酒造会社である司牡丹酒造。「高知に来る前、知人に司牡丹さんのお酒をいただいたことがあり、いい酒蔵さんだと思っていたこともあり、今回、日本酒の成分分析を研究課題にする際、お声をかけさせていただきました」と小崎先生は語ります。

高知県には18の酒蔵があり、四国では最多

この研究が高知の新しい酒造りに大きく繋がります。

です。一方、資金や人材、機材などが不足しており、限られた資源のなかで収益拡大を目指すには商品開発が欠かせません。そこで、県内企業を支援する高知県工業技術センターでは近年、アルコール発酵を担う酵母を精力的に開発しています。

「ただ、新酵母で醸造するとどういった成分が生まれ、どのようなお酒ができるのか、不明な部分が多くあります。このため、良い酵母かもしれないとは思っても、酒造会社は手を出しにくいんですよ」と小崎先生。たとえば、香り高い酒ができる「CEL24」という高知県独自の酵母がありますが、多くの酒造会社が使っているのは20年以上かかったといえます。

こうした従来の酒造りが持つ問題点が、小崎先生の研究によって解消される可能性が出てきました。



特集1

世界初の

日本酒分析方法を開発!

② 1つの分析方法で、主要な成分データがわかる!

今回の小崎先生の研究は、日本酒に含まれている主な成分の画期的な分析方法。日本酒を醸造する場合、どういった味わいになっているのか、実際に試飲してみるのに加えて、成分の分析を行うことが欠かせないそうです。「日本酒で特に重要な成分は、糖と有機酸、アルコールの3つ。これら複数の成分を調べる場合、別々の分析機器を使って測定されてきました」

必要な機器をすべて揃えるには、約600万円という大きな設備投資が必要。中小の酒造会社では難しいので、高知県工業技術セン

ターに分析を依頼するのが通常です。しかし、同センターのキヤパシテイには限りがあり、県内の全酒蔵のサンプルをすべて分析するのは不可能。そこで、小崎先生はこれまでにない分析方法を考えました。

「たとえば環境分析をする場合、陽イオンと陰イオンは別々に調べることが多いのですが、わたしは同時に分析する方法の研究にも携わってきました。今回、その考え方を応用し、日本酒に含まれる糖と有機酸、アルコールの同時分析法を作り出しました。世界初の分析方法で、これを『MFS-IIC』と名付けました」

③ わずか半年の開発期間で新しい日本酒が完成!

MFS-IICの大きな利点はもう一つあり、従来とは比較にならないスピードで新商品を開発することができました。

「新しい酵母を使う場合、どういったお酒ができるのかよくわからないので、3年から5年ほどかけて調整し、完成に近づけていきます。MFS-IICの分析方法を使うと、この商品化までの道のりを大幅に縮めて、半年で完成させることが可能です」



司牡丹酒造での試験醸造



試験醸造に用いる温調器

決める糖の二種であるグルコース(ブドウ糖)、② ヨーグルト臭のもととなるピルビン酸、爽やかさ(酸度)に影響するクエン酸やコハク酸、リンゴ酸などの有機酸、③アルコール度数に関係するエタノールなどの成分を1つの分析機器で気に分析することができるようになりました。

「MFS-IICを使うと、高校の教科書に載っている解糖系やクエン酸回路など、基本的な生化学反応回路に関連する成分のほとんどを一度に分析できます。自画自賛になりますが、これはすごいぞと思います(笑)」

従来の分析方法とは違って、必要な分析機器は1台のみでOK。かかる費用は約200万円と、これまでの3分の1の設備投資で済みます。分析に要するスタッフ数や拘束時間についても削減でき、これらも3分の1程度で収まるということです。酒造会社にとって、メリットしかない方法といえそうです。

開発期間の短縮に向けて、小崎先生はいま、発酵に関連する条件を変えながら、5リットルという少量の試験醸造を進めています。条件の要素は醸造開始温度、タンク管理温度、加水時期、加水量の4つです。各要素に様々な条件を組み合わせて醸造すると、成分が異なる計54通りの酒が仕上がります。(醸造開始温度は3℃、7℃、10℃の3通り。タンク管理温度は、7℃、10℃、13℃の3通り。加水時期のアルコール度は6%時点、8%時点、10%時点の3通り。加水量は全量の10%、20%の2通り)

「成分データを見れば、どういった味わいなのかだいたい見当がつきます。酒造会社はそれぞれの成分データを参考にして、開発したい酒に合った条件で醸造すればいい、ということになります。現在、研究はまだ進行中ですが、完成すればその方法とスキームを使って、造りたい酒が早くできるようにするはずですよ」

この共同研究は2021年10月にスタート。2022年10月からは1年間にわたって、司牡丹酒造が小崎先生のデータをもとにより大きな容量の100リットルで試験醸造。その後、狙った通りの日本酒造りを達成し、品評会に出品する計画です。最終的には、研究成果をすべて高知県工業技術センターに伝達し、県内のどの酒造会社も、MFS-IICの技術を利用できるようにすることを目指しています。

「すでに県内数社の酒造会社さんから、完成したら試してみたい」と声をかけられています」と小崎先生。日本酒業界全体を驚かせる革新的な研究は、いま順調に進められています。



高知県工業技術センターでの分析の様子



MFS-IICを用いた分析の様子

一次産業のデータ解析、
デジタルによる変革に向けて

農林海洋科学部

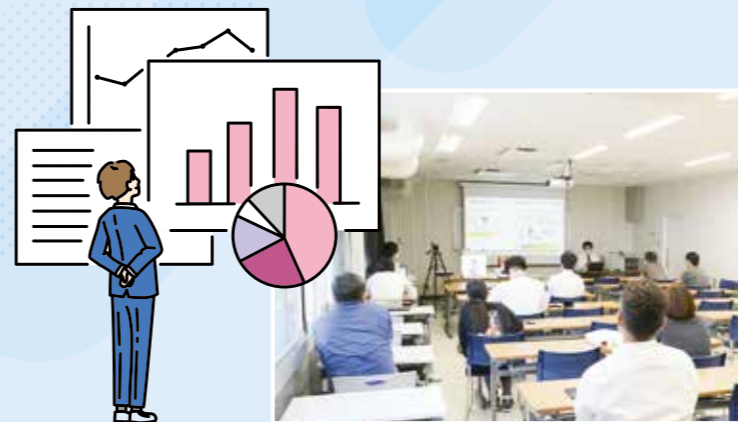
DS/DX セミナー

農林海洋科学部では独自の研究を
発信しようと、学内外に向けて
「DS/DXセミナー」を開催しています。
ヒグマの奇妙な食性や、フリーズドライ技術による
牛の体外受精、3Dバイオプリンタなど
テーマはじつに個性的！
何を目指しているのか、プロデューサー的な立場の
松川和嗣教授に聞きました。



1 農林海洋科学部が推進する「DS/DX」を伝えたい

「DS/DX」とはどのようなことでしょうか？
2023年、農林海洋科学部では改組が行われる予定で、一次産業のDS/DXを強力に推進します。DSとは「データサイエンス」のことです。DS/DXの研究では遺伝子に関する情報、野外の研究では画像などの膨大なデータがストックされます。統計的な手法を用いて、これらのデータを解析するのがDSです。一方、DXすなわち「デジタルトランスフォーメーション」では、インターネット等を介して収集したデジタル情報を用い、社会をより良いものへと変革することを目指します。



2 「対面+オンライン」で、学内外に幅広く発信

高知大学もそういう開かれた大学にしたい、という思いもあってのことです。
「DS/DXセミナー」を企画しました。
また、新型コロナウイルスの流行以来、学内外の交流が途絶えてしまっており、何をやるべきかよくわからない、という学生や高校生が増えています。もっと積極的に学べる場を設けたいと思ったことも、セミナーを開催する理由の1つです。
私は海外の大学に留学していたことがあり、向こうでは学内外に向けた専門の分野だけでなく異分野のセミナーを数多く行っていることに感銘を受けました。それが大学の本来の姿ではないかと思えます。セミナーを企画したのは、



3 月に1〜2回開催し、来年度も継続したい

「細胞でデザインする○○」というタイトルで開催します。セミナーは3部形式になっていて、まず私がイントロダクション的な講演を行います。それから京都府の企業、セルインク株式会社に、最先端の3Dプリンタの事例紹介や実践のデモンストレーションを行っていただきます。
— 今後は、どのようなセミナーをお考えですか？
農林海洋科学部でDS/DXからんだ研究をしている先生に登場いただきます。第3回は人工衛星等を用いたリモートセンシングや地理情報システム(GIS)といった、地理空間情報技術を専門にしている先生にお願いします。本年度は、基本的に月に1〜2回ほど開催する予定です。単年度で終わるのではなく、来年度も続けたいと考えています。

— 第1回はこういったセミナーだったので、来年度予定の改組に向けて、今年度はDS/DXに関連する研究に取り組む4人の研究者が着任しました。第1回のセミナーは、野外で入手したデータを活用する富田幹次助教に講義を行っていただきました。また20代の若い先生で、北海道大学で森林管理と野生動物の関係、動物による生態系改変作用などを研究されていたそうです。
北海道の知床半島ではヒグマがセミを食べるが、それはなぜなのか。人工林で多く見られることや、掘り起こしによる植物への影響など、非常に興味深い内容をわかりやすく話していただきました。質疑応答に積極的に参加する学生も多く、コロナ禍で対面学習の機会が激減したなか、こういった機会に飢えているのかなと思いました。



Profile

農林海洋科学部
(教育研究部総合科学系
生命環境医学部門 准教授)

まつかわ かずつく
松川 和嗣

大阪府出身。信州大学繊維学部卒業、博士(工学)。専門は家畜繁殖学、発生工学。土佐あかうし研究の第一人者。2020年には宮城県畜産試験場との共同研究で、フリーズドライ精子による子牛誕生に世界で初めて成功した。「牛の細胞をいかに再現できるのか。3Dプリンタには興味があります。DS/DXセミナーに関しては企画者という立場。ネタが無く限り、開催していきたいですね」

続いて講演を行ったのは、京都府のスタートアップ企業、セルインク株式会社。同社は3Dバイオプリンティングとその周辺技術、知見により、ライフサイエンスの発展に寄与することを目指す会社です。まず、アプリケーションスペシャリストの浅田達さんが「バイオ3Dプリンタとは？～事例集」と題して講演。細胞の微小な環境を模倣する技術、コラーゲンやゼラチンをベースにしたバイオインクの特長、再生医療での利用の可能性など、最先端の技術について興味深い事例をあげながら解説しました。

次いでバイオ3Dプリンタの実機が登場し、プリンティングによって立体化されていく「細胞」に、参加者の目はくぎ付けになりました。「触ってみてください」との声に促され、シャーレに入った細胞に触れた参加者は「やわらかい」「プルプルしている」と驚きの声。講演プラス実機デモで、非常に充実したセミナーになりました。



バイオ3Dプリンタで形成された「ステーキ肉」

5/27 第2回セミナー Report

金 テーマ/細胞でデザインする[○○]

第2回のDS/DXセミナーは5月27日に農林海洋科学部農場棟で開催され、リアルタイムでオンライン配信も行われました。



最初に、高知県独自の和牛「土佐あかうし(褐毛和種・高知系)」が専門の松川先生が登場。「哺乳動物細胞の可能性」と題して講演を行いました。前半は「細胞でデザインする生命」をテーマに、牛の体外受精の様子やフリーズドライ技術の哺乳動物細胞への応用といった研究を紹介。次に「細胞でデザインする牛肉」について、最近よく話題になる培養肉の最新知見などをレクチャーしました。



学内外に大学の教育や研究などの取り組みを発信する大学広報。じつは学生のなかにも、ボランティアとして広報活動に参加するスタッフがいるのです。大学生の視点を生かした活動を目指す、令和4年度の学生スタッフ5人に話を聞きました。

さまざまな思いをもって 広報活動に臨む

なぜ学生広報スタッフに参加しようと思いましたが。

森本 サークル以外に他の学部の人と一緒に話す機会がなかったから、他学部と接点を持ちたかったからです。あと、高知大学に関心がある高知生のための情報を届けられるといいなというのも動機です。

佐竹 コロナの影響で共通教育の授業もオンラインだったため、朝倉キャンパスに通うことができませんでした。医学部以外の人と関わる機会を持ちたかったし、医学部について広報したり、他学部取材に行ったりすることで、医学部と他の学部との橋渡し役になれたらと思いました。



人文社会科学部3年
田村 さん

田村 僕は大学からのアンケートで高知大学の知名度が足りていないと答えたから、広報活動についての案内メールが届き、活動について知りたくなりました。参加できるなら参加しようかなという結構軽い気持ちで参加しました。



医学部3年
佐竹 さん

西上 3年生でコロナの影響をもうに受けた世代で、よく考えたら大学入学から自分の中で何もしていないなという思いがあつて、一種、賭けのような気持ちで参加しました。

萩野 広報誌『リード』で、高知大学にどのような先生がいて、どのような取り組みをしているのか情報を得ていました。でも、まだまだ知らないことが多いので、広報スタッフとして大学の魅力を自分なりに深めていきたいと思って参加しました。

高知大学のこと、もつとわかってほしいから 私たち、 学生広報スタッフに なりました！

高校生に高知大学の リアルを伝える

広報活動で、誰に向けて何を伝えていきたいですか？

田村 高校生、特に受験生に向けて発信できればと思っています。オーブンキャンパスは行われますが、県外から参加するのはややハードルが高い。インターネットやSNSで調べられる方法はあるけれど、欲しい情報が見つからない場合もあるので、本当の大学生の姿が見えるような形で発信できればと思います。写真や動画を使ったキャッチーなものがないのではないかな。

西上 僕も高校生向け。もっとリアルな大学生の情報の方が、高校生には響くと思います。例えば、都市圏の学生がわざわざ地方国立大学まで地域を学びに来るから、地域協働学部には日本の大学で一番個性的な学生が集まっていると僕は思っています。そういう面白さを伝えたい。



人文社会科学部2年
萩野 さん



学べて、どのような資格が取れるのかはとても大事だと思います。高知生のニーズに合う、大学選びの選択肢となる項目を加えたい。インスタグラムなどのSNSを媒体に、田村さんも言っていたようなパッと目につく写真などと短文を使った投稿で、わかりやすく伝えられたらいいなと考えてます。

高知大学の魅力を伝える 思いはひとつ

佐竹 高知大学のそれぞれのキャンパスは雰囲気全然違います。例えば朝倉キャンパスはさまざまな分野を目指す多様性があると感ずるし、岡豊キャンパスには専門的な研究で結果を残す先輩たちがいる。そんな互いの情報を共有できるような広報がしたいので、交流イベントのようなことができればいいなと考えています。

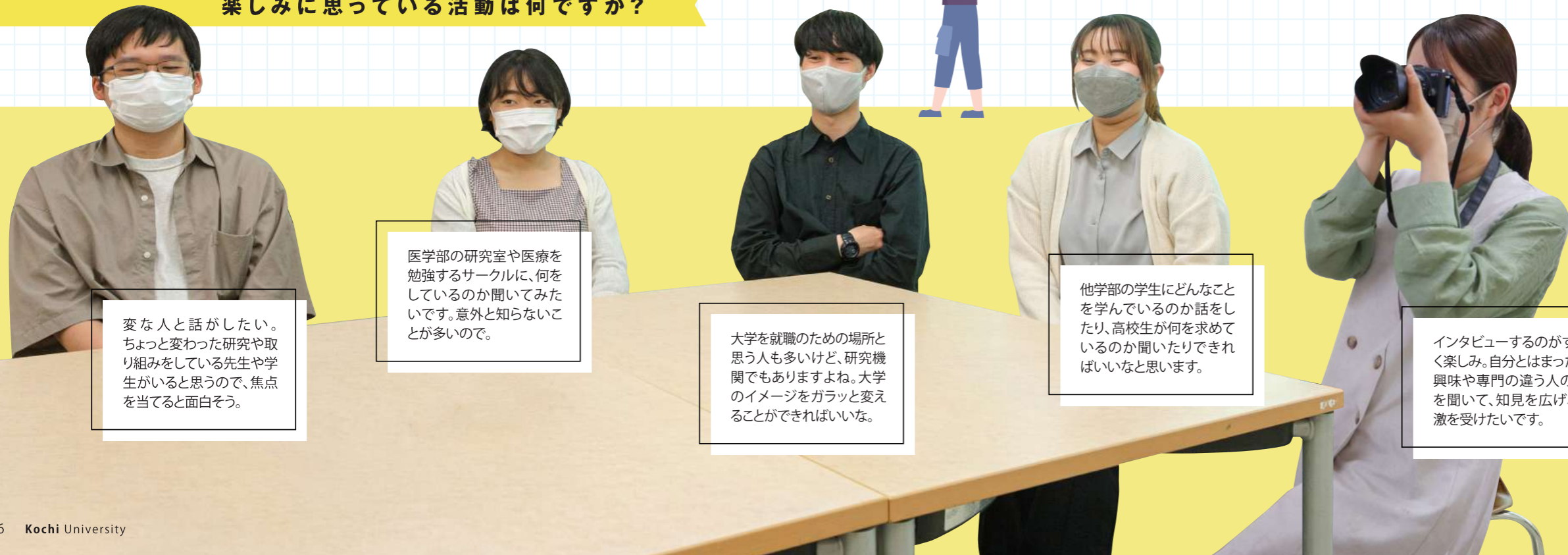


教育学部2年
森本 さん



西上 高知大学のいいところやキラッと光っているものを伝えたい、という思いは全員の中にあると思うんです。その手段がSNSや交流イベント、媒体であり、その中で得意分野を生かせるようなチームになればいいと思います。

楽しみに思っている活動は何ですか？



変な人と話したい。ちょっと変わった研究や取り組みをしている先生や学生がいると思うので、焦点を当てると面白そう。

医学部の研究室や医療を勉強するサークルに、何をしているのか聞いてみたいです。意外と知らないことが多いので。

大学を就職のための場所と思う人も多いけど、研究機関でもありますよね。大学のイメージをガラッと変えることができたらいいな。

他学部の学生にどんなことを学んでいるのか話をしたり、高校生が何を求めているのか聞いたりできればいいなと思います。

インタビューするのがすごく楽しみ。自分とはまったく興味や専門の違う人の話を聞いて、知見を広げ、刺激を受けたいです。

学生広報スタッフとは

高知大学の学部生・大学院生が、本学の教育・研究活動や学生の活動などを学内外に発信する広報活動に、ボランティアとして参加します。令和4年度は5人の学生広報スタッフが誕生しました。

- SNS** 大学生の日々の様子などについて情報発信を行う。
- 広報誌** 広報誌の企画立案や取材、撮影、原稿を作成。
- ラジオ** 高知大学ラジオ企画「Monthly 高知大学」に出演し、学生広報スタッフの活動内容などを紹介。
- 大学訪問** 高知大学の魅力が伝わるプレゼンや、高校生からの相談対応を行う。
- 高校訪問** 高知大学の魅力が伝わるプレゼンや、高校生からの相談対応を行う。
- オープンキャンパス** 高知大学の魅力が伝わるプレゼンや、高校生からの相談対応を行う。

高知の農業を変える IoPを学ぶ

IoPの研究を進めている 高知大学で学びたい

産学官が連携し、IoT・AI技術を利用して富農支援によって、高知県の施設園芸農業の発展を目指す「IoP (Internet of Plants)」。高知大学では2021年10月、IoP共創センターを設立し、AI・ITの開発などを農家と連携しながら研究を進めています。そんな高知大学でIoPを学びたいと、この春から大学に通う2人がいます。「高知大学でIoPの研究をやっていることを知り、進学を決めました」と話す安田愛菜さんは高知県立幡多農業高校を卒業後、農林海洋科学部に入学。一方、同高校の教師である安部誠一郎さんは、4月からIoP共創センターで研修を受けています。安部さんは、「これからは農業高校でも、データサイエンスなどについて取り上げることがあると思います。データサイエンスを教えるための知識や技術を身につけたいと思っています」と意欲を見せます。

IoPを学ぶための教材としてソフトウェア開発にも取り組まれます。IoPを含め、高知県の農業はこんな感じです。IoPを通じて、高知県の農業はこんな感じです。IoPを学んでいると、生産者など広く一般の人に向けたオンライン講座「IoP塾」を受講。「高知大学だけでなく、高知工科大学や高知県立大学の先生、行政の方など、いろいろな分野の専門家の方の話を聞かせてもらい、多岐に渡る取り組みなのだ」と実感しています。



高校の時のスマート農業やIoPの研究が今につながったんだね

データサイエンスという 新しい学びを高校に

安田さんには高知大学でかえたい目標があるといいます。「農業高校で教えることができる農業の教員免許を取りたいと思っています。農業高校の授業や実習がとても楽しかったので、農業の教員になろうと決めました。体を動かして作物とかかわってそれが収穫につながったときが一番うれしい。その気持ちを伝えられるような教員になりたいです」と思いを語ります。

1年間の研修を終えた後は、再び幡多農業高校で教員として働く安部さんは、「農業で生徒を育てたい。『百姓』という言葉は、百の仕事ができる人という意味があるといわれます。それだけ、さまざま



高知県立幡多農業高校 教諭
安部 誠一郎さん

高知大学農学部卒業。2022年4月から1年間、高知大学IoP共創センターでデータ解析やプログラミングなどを学ぶ。「教育現場は忙しく、なかなか自分自身の学びの時間を取れないので、研修に来させてもらい、すごく充実しています」



将来の目標は農業高校の先生になることです！

農林海洋科学部 1年
安田 愛菜さん

高知県立幡多農業高校卒業。「暑い時などの農作業は本当に大変です。でも、それが作物のためになると思うと、やってよかったなという風につながる。農業が大好きなんです」

なぜ、高知大学の職員に なったのですか？

大学入学当初は、大学職員という仕事を知らなかったのですが、オンライン就職相談でこの仕事を知り、母校である高知大学で勤めたいと目指すことを決めました。また、学生時代には高知大学の就職室でアルバイトもしていたので、それも大学職員に興味をもったきっかけとなっています。ちなみに、地域や広報に関わる仕事につきたいということは、就職試験のときから伝えていました。希望がかなって、今年春から総務部総務課広報室で勤務しています。

地域協働学部では、「地域で役立つデザイン」を軸に学んできました。実習の主なフィールドである土佐山地域では、ポスターや地域情報誌作り、イベントの企画を行い、仲間や地域の方々から沢山刺激を受けました。さらに、在学中に、会議や講演の内容を文字とイラストで記録する「グラフィックレコーディング」の技術も身につけました。こうした地域での学び、デザインの技術を活かしたいという思いもあり、広報の仕事を目指しました。

今、どのような仕事を していますか？

高校生向けの進学ガイダンスやオープンキャンパスなど、主に入試広報に関する業務を担当しています。例えば進



国立大学法人高知大学 総務部 総務課 広報室
高橋 萌瑛

高知県出身。2018年、地域協働学部に入學。卒業後、高知大学総務部に勤務。「理想の職員像は温かい人。職場の同僚はもとより、外部の方や学生に対しても、温かい対応ができる職員でありたいです」

学ガイダンスでは高校と仲介業者、説明を行う大学教員の間で、日程や内容の調整などを行っています。他にも、ツイッターなど大学公式SNSでの情報発信も担当しており、思っていた以上に仕事が多岐に渡ることを実感しています。

学内でアルバイトをしていたとはいえ、事務職員の細やかな配慮など、実際に働いて初めて分かったこともありま。先輩職員が学生広報スタッフ（P5参照）の対応をしているとき、学生の負担にならないように配慮しつつ、学びにつながる経験をしてもらいたいと考えている姿に感銘を受けました。大学では教員だけでなく、職員も学生の成長を見守り、支えているのだと思いました。

今後、やってみたい 仕事は何ですか？

高知大生と地域をつなげる取り組みができたらいなと考えています。学生時代、自分の住んでいる地域のレポートを課され、地元の町内会議でインタビューをお願いした際に、「高知大学はこ

がんばる！ 先輩

社会で活躍するOB・OGを紹介

高橋 萌瑛

地域協働学部 2022年卒業



グラフィックレコーディングの様子↓



↑土佐山での実習で冊子作りに取り組む

学部での学びを活かして 地域と大学を結ぶ広報活動をしたい！

キャンパスライフひと言アドバイス

勉強や就活、論文と、一人で悩む時間が、学年が上がるごとに増えていくと思います。そんな時は、必ず誰かに相談してみてください。私も新型コロナウイルスの影響で、家から出られなかった時期に一人でモヤモヤしていました。でもゼミの仲間や地域で出会った方々と話をすることでずいぶん解消できました。



高知大学創立75周年記念事業 キックオフイベントを開催しました

令和6年に創立75周年を迎える高知大学は、SRU (Super Regional University: 地域を支え地域を変えることができる大学) に変貌していくため、本年5月から翌々年11月までをアニバーサリー期間とし、「高知大学創立75周年記念事業」として各種シンポジウムの開催やよさこい演舞場開設、校友会の設置など様々な取り組みを行います。

本事業の開始宣言として5月14日(土)高知大学朝倉キャンパスにてキックオフイベントを開催しました。当日は、高知県及び県内の市町村の首長、大学関係者の74名の出席があり、オンラインでも136名の視聴がありました。

式典では、受田浩之理事(地域連携・国際連携・広報担当)から、開式の辞としてアニバーサリー期間のスタート宣言がされた後、櫻井克年学長からSRUの概要説明を交え、本学がこれから目指していく方向性についてのプレゼンテーションが行われました。

次に、本学設立時からの歴史を振り返るVTR「高知大学の源流をたずねて」の上映と、旧制高知高等学校24期卒業生である薄木卓氏から先輩からのメッセージとして巻き手紙の朗読が行われました。

続いて、創立記念事業の実施にあたって一般公募し選出された創立75周年ロゴマークの披露や、学生によるよさこい演舞が行われ、最後に本学の今後の躍進を願い、紙風船で作成したパレーンリリースが行われ、本イベントは大盛況のうちに幕を閉じました。



パレーンリリース



創立75周年ロゴマーク



創立75周年ロゴマーク作成者の丸山三智氏。他にも優秀賞受賞者2名の表彰が行われました。



高知学生「旅鯨人」のよさこい演舞。よさこい祭りを通じてSRUを広く知ってもらうため、75周年ロゴマークをあしらった記念旗が櫻井学長から本学8つのよさこいチームに授与されました。



櫻井学長のプレゼンテーションでは、SRUを目指すための「県民が皆「高知大学生」構想」が打ち出され、高知大学校友会を設置し大学発展に寄与していく講話が披露されました。



熱い青春時代を振り返り、未来の本学への想いを込めて朗読された薄木卓氏の巻き手紙は、先輩からのメッセージとして学長に手渡され、会場から大きな拍手をいただきました。

人文社会科学系教育学部門の阿部鉄太郎准教授の作品が、井上ワイナリー株式会社「のいち醸造所」に設置されました

人文社会科学系教育学部門の阿部鉄太郎准教授が制作した彫刻作品が、4月29日(金)にグランドオープンした井上ワイナリー株式会社「のいち醸造所」に設置されました。

阿部准教授は、自身の研究室において塑造(粘土)による具象表現の研究を行っており、本学と連携協定を結んでいる井上石灰工業株式会社との共同研究として、のいち醸造所の施設ファサードとなる彫刻作品を制作しました。

今回は地産農作物として葡萄やワインなどを題材にした芸術作品を制作し、県内の芸術文化の振興を目指します。のいち醸造所にお立ち寄りの際には、是非ご覧ください。



高知大学の学生団体が県内農家の就労支援に関する連携協定を締結



令和4年3月4日、高知大学の学生団体「Destiny」、JAグループ高知、アニバーサリーコンシェル株式会社は、高知県内農家の就労支援に関する連携協定を結びました。

本学では、一定の教育プログラムを取得した学生を「地方創生推進士」として認証することで、

地域の未来をつくる革新力を備えた人材の育成に取り組んでおり、「Destiny」は、地方創生推進士の認証を受けた同大学の学生が立ち上げたもので、慢性的な人手不足を抱える農家と新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け生活が困窮している学生をつなぐ取組を行っています。

調印式では、「Destiny」代表の地域協働学部2年生(当時)の稲葉涼太さんから「コロナ禍でマッチングを始めましたが、単なるアルバイトではなく、農業の魅力にふれるきっかけにもなってほしいと思います」と意気込みが述べられました。アニバーサリーコンシェル株式会社ではITを活用したソーシャルイノベーションを展開しており、高知県の農業を支えるJAグループ高知ら三者がもつネットワークを掛け合わせることで今後さらなる支援の拡大や、IT化が進む高知県の新しい農業を体感することで学生の就農に対する関心の高まりが期待されています。

高知信用金庫と連携協定を締結



令和4年3月30日、高知大学と高知信用金庫は、地域経済の活性化に向けた連携協定を締結しました。

本協定は、両者が保有する知的・人的資源、各種情報、ノウハウ等を活用し合うことで、地域経済の活性化、産業振興による地方創生、社会の発展への貢献を目指すものです。

当日は高知信用金庫第一センターで調印式が行われ、櫻井克年学長からは「情報交換やセミナーの開催、大学の研究と企業のマッチングなどに取り組み、両者のネットワークを共有し合うことで地方創生への相乗効果が生まれることが期待される」、高知信用金庫の山崎久留美理事長からは「知の集積地の高知大学と連携することで地域産業の発展に資する仕事ができる」とそれぞれ抱負が述べられました。

佐野有司海洋コア総合研究センター長が2022年度の公益社団法人日本地球惑星科学連合(Japan Geoscience Union, JpGU)のフェローに選出されました



この度、佐野有司海洋コア総合研究センター長が2022年度の公益社団法人日本地球惑星科学連合(以下JpGU)のフェローに選出され、5月22日(日)に幕張メッセで開催された地球惑星科学連合大会において、表彰式が執り行われました。

JpGUは、地球惑星科学を構成するすべての分野及び関連分野をカバーする研究者・技術者・教育関係者・科学コミュニケーター、学生や当該分野に関心を持つ一般市民の方々からなる個人会員、地球惑星科学関連学会を団体会員、事業を援助している賛助会員から構成される学術団体です。(個人会員10,000名以上、団体会員51学協会 2020年11月末現在)

JpGUのフェロー制度は、地球惑星科学において顕著な功績を挙げ、あるいはJpGUの活動に卓越した貢献をされた方をJpGUにおいて高く評価し、名誉あるフェローとして処遇することを目的として設置するものです。

土佐FBC修了生が、全国初 機能性表示食品届出メロン “睡眠の質を高める”として発売中



本学が実施する土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業(土佐FBC)のSコース修了生である「くだもの山長」の山本博志代表が、アミノ酸の1種であるGABA(γ-アミノ酪酸)を機能性関与成分とした高知県産生鮮食品2品『やすらぐマスクメロン for Relax』『やすらぐマスクメロン for Sleep』の機能性表示食品届出を行い、4月1日付で完了しました。

今回届出を行った2品の内、『やすらぐマスクメロン for Sleep』はGABA含有量が非常に高く、全国初の機能性表示食品届出メロン:“睡眠の質を高める”となります。『やすらぐマスクメロン for Relax』『やすらぐマスクメロン for Sleep』は、4月27日(水)から「くだもの山長」の店頭及びホームページにて発売中です。

高知大学創立75周年記念事業へのご寄附をお願いいたします

「高知大学創立75周年記念事業」では、これまで本学にご支援で協力いただいていた多くの皆様方に対して改めて感謝をお伝えする機会とするとともに

校友会の設置 シンポジウムの開催 よさこい演舞場開設 魅力ある研究紹介 など

これからの高知大学の発展に資する様々な事業を展開していきます。

SRU (Super Regional University; 地域を支え地域を変えることができる大学) を目指し 教職員学生一同、一丸となって邁進する所存でございます。 今後の国立大学法人高知大学の目指す方向にご賛同いただき ご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

〈お問い合わせ先〉

高知大学基金・校友事業課

TEL:088-844-8752 E-mail: sj02@kochi-u.ac.jp

URL: https://75th.kochi-u.ac.jp/

ご寄附はこちら



令和4年5月14日にキックオフイベントを開催しよさこいチームに記念旗を授与しました。

高知大学で開催するイベントを紹介します。

2022年8月6日(土)・7日(日) オープンキャンパス 2022 開催

朝倉・岡豊・物部キャンパス内で開催します。
参加申込は8月1日まで受付中。
詳しくは右記の二次元バーコードよりアクセス!

※一部の学科コースはオンライン開催となります。



今年は
リアルで
開催!

朝倉
キャンパス

岡豊
キャンパス

物部
キャンパス



動画で見る高知大学

「YouTube」・「夢ナビ」で学科紹介や
講義動画を視聴できます。

YouTube



夢ナビ

デジタルパンフレット

大学のパンフレットや各学部のパフレットを
閲覧できます。



2023年度 入試

学部	学科・課程	コース	総合型選抜			一般選抜	
			共通テスト無	共通テスト無	共通テスト有	前期	後期
人文社会科学部	人文社会科学科	人文科学	—	●	—	●	●
		国際社会	—	●	—	●	●
		社会科学	●	●	●	●	—
教育学部	学校教育 教員養成課程	幼児教育	—	—	一般・高知枠	●	—
		教育科学	—	—	—	—	—
		教科教育	—	一般・高知枠	一般・高知枠	●	—
		特別支援教育	—	—	—	—	—
		科学技術教育	—	—	—	●	—
理工学部	数学物理学科 情報科学科 生物科学科 化学生命理工学科 地球環境防災学科	数学物理学科	—	—	●	●	●
		情報科学科	—	●	—	●	●
		生物科学科	—	●	—	●	●
		化学生命理工学科	—	●	—	●	●
		地球環境防災学科	●	●	—	●	●
医学部	医学科 看護学科	医学科	●	—	地域枠	一般・地域枠	—
		看護学科	—	●	—	●	●
農林海洋科学部 ※	農林資源科学科	フィールド科学	●	●	—	●	●
		農芸化学	—	●	—	●	●
	海洋資源科学科	海洋生物生産学	—	—	●	●	—
		海底資源環境学	—	—	●	●	●
		海洋生命科学	—	—	●	●	—
地域協働学部	地域協働学科	●	●	—	●	—	

※農林海洋科学部は改組を予定しています。掲載内容は2022年4月時点の情報であり、学部・学科・コース名称は全て仮称です。また、選抜方法等についても変更する場合があります。最新の情報は「高知大学受験生サイト」でご確認ください。

■高知大学のFMラジオ放送中!

FM 高知 81.6MHz
「Monthly 高知大学」
【毎月】第4金曜日 10:15~

radikoで
チェック!

■アンケートご協力をお願い

抽選で5名の方に
高知大学オリジナル
グッズをプレゼント!

アンケートはこちら▶
回答期限: 令和4年10月31日



■広報誌 Lead への広告募集中!

高知県内に事業所を有する企業を対象に広告
(有料)を募集中。ご希望の企業は下記総務課
広報室までお問い合わせください。

■高知大学公式 SNSはこちら!



新型コロナウイルスに対する本学の対応については、大学ホームページのトップページ「重要なお知らせ」に最新情報を掲載していますので、ご覧ください。

●お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学 総務課広報室
TEL.088-844-8643

FAX.088-844-8033 E-mail: kh13@kochi-u.ac.jp

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 <http://www.kochi-u.ac.jp/>

HPはこちら



バックナンバーは
こちらから
ご覧いただけます。

